「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成23年9月～11月分）について

1.　9月分

(1) 問い合わせ件数

平成23年9月1日～平成23年9月30日　136件

（うち、放射性物質関連　85件）

（参考）問合せ件数推移

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
64件	60件	418件	350件	216件	212件	278件	204件	136件	166件	97件

(2) 内訳

項目		件数	主な内容
①食品安全委員会関係		16 件	
	委員会	4 件	
	リスクコミュニケーション	12 件	HP掲載資料（5件）、パブコメ（2件）、季刊誌（2件）　等
②食品健康影響評価関係		14 件	
	評価全般	1 件	
	化学物質系	2 件	
	生物系	0 件	
	新食品	2 件	
	BSE	1 件	
	その他	8 件	放射性物質（8件） （評価書案、パブコメ　等）
③食品一般（リスク管理等）関係		97 件	
	化学物質系	4 件	食品添加物（3件）　等
	生物系	1 件	
	新食品	2 件	大豆イソフラボン（2件）
	プリオン	0 件	
	衛生関係	13 件	衛生管理（10件）、規格基準（2件）　等
	食品表示関係	4 件	
	その他	73 件	放射性物質（73件） （暫定規制値、個別食品の安全性、検査等）
④その他		9 件	

2.　10月分

(1) 問い合わせ件数

平成23年10月1日～平成23年10月31日　166件

（うち、放射性物質関連　94件）

(2) 内訳

項目		件数	主な内容
① 食品安全委員会関係		14 件	
	委員会	2 件	専門調査会の運営(2 件)
	リスクコミュニケーション	12 件	HP掲載記事関連(6 件)、メールマガジン(3 件)　等
② 食品健康影響評価関係		46 件	
	評価全般	0 件	
	化学物質系	6 件	食品添加物(2 件)、メチル水銀(2 件)　等
	生物系	0 件	
	新食品	1 件	
	BSE	0 件	
	その他	39 件	放射性物質(38 件) (評価書の内容、答申時期、外部被ばくの取扱い　等) 窒息事故(1 件)
③ 食品一般(リスク管理等)関係		99 件	
	化学物質系	9 件	
	生物系	1 件	
	新食品	6 件	健康食品(4 件)　等
	プリオン	3 件	米国産牛肉(3 件)
	衛生関係	18 件	衛生管理(11 件)、輸入食品(7 件)
	食品表示関係	11 件	期限表示(4 件)、産地表示(3 件)　等
	その他	51 件	放射性物質(50 件) (暫定規制値、検査　等) 窒息事故(1 件)
④ その他		7 件	TPP(3 件)　等

３．　11月分

(3) 問い合わせ件数

平成23年11月1日～平成23年11月30日　　97件

（うち、放射性物質関連　47件）

(4) 内訳

項目		件数	主な内容
①食品安全委員会関係		14 件	
	委員会	3 件	専門調査会の運営(2 件)　等
	リスクコミュニケーション	11 件	HP掲載記事関連(5 件)　等
②食品健康影響評価関係		13 件	
	評価全般	0 件	
	化学物質系	2 件	
	生物系	0 件	
	新食品	2 件	
	BSE	0 件	
	その他	9 件	放射性物質(9 件) (評価書の内容、外部被ばくの取扱い　等)
③食品一般(リスク管理等)関係		64 件	
	化学物質系	4 件	食品添加物(2 件)　等
	生物系	3 件	
	新食品	4 件	健康食品(2 件)　等
	プリオン	2 件	鹿のプリオン病(2 件)
	衛生関係	10 件	衛生管理(4 件)、輸入食品(3 件)、生食基準(2 件)　等
	食品表示関係	13 件	産地表示(5 件)、放射能表示(3 件)　等
	その他	28 件	放射性物質(28 件) (暫定規制値、検査　等)
④その他		6 件	

４．問合せの多い質問等

Ｑ　放射性物質の食品健康影響評価の概要を教えてください。

Ａ：

「食品中に含まれる放射性物質の食品健康影響評価」の概要は、以下の通りです。

○　食品健康影響評価として、生涯における追加(※1)の累積の実効線量がおおよそ 100mSv 以上で放射線による健康影響の可能性(※2)

○ そのうち小児の期間については、感受性が成人より高い可能性(甲状腺がんや白血病)(※3)

○ 100mSv 未満の健康影響について言及することは、現在得られている知見からは困難

(※1) 自然放射線（日本平均約 1.5mSv／年）や、医療被ばくなど通常の一般生活において受ける放射線量を除いた分

(※2) 健康影響が見いだされる値についての疫学データは錯綜していたが、食品分野のリスク分析の考え方（科学的知見の確実性や、健康影響が出る可能性のある指標のうち最も厳しいものの重視等）に基づいておおよそ 100mSv と判断したもの

(※3) 被ばく線量の推定等に不確実な点があるが、チェルノブイリ原発事故の際、周辺住民の小児について、白血病のリスクが増加した、被ばく時の年齢が低いほど甲状腺がんのリスクが高い等の疫学データ有り。

これを受けて、食品中の放射性物質の規制値について、厚生労働省では、来年４月を目途に、一定の経過措置を設けた上で、許容できる線量を年間 1mSv に引き下げることを基本として、薬事・食品衛生審議会において検討されているところです。

なお、同審議会では、食品中の放射性物質のモニタリング検査で得られた測定データと食品摂取量のデータを用いて、流通食品由来の被ばく線量を推計していますが、これによると、自然放射性物質の摂取による年間実効線量が 0.4mSv 程度であるのに対し、追加の被ばく線量は 0.1mSv 程度(※4)と推計されています。

(※4) モニタリングで得られた測定データの中央値の場合

（参考）

・放射性物質の食品健康影響評価について（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/radio_hyoka.html

・食品安全委員会委員長談話～食品に含まれる放射性物質の食品健康影響評価について～（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/fsc_incho_message_radiorisk.pdf

・食品中に含まれる放射性物質の食品健康影響評価（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/radio_hyoka_detail.pdf

・「食品中に含まれる放射性物質の食品健康影響評価」の概要（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/radio_hyoka_gaiyo.pdf

・放射性物質を含む食品による健康影響に関するＱ＆Ａ（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/radio_hyoka_qa.pdf

・食品中に含まれる放射性物質に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての御意見・情報の募集結果（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/iken-kekka/kekka-risk_radio_230729.pdf

・季刊誌「食品安全」第２８号（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/kikansi/kikansi.html

・東北地方太平洋沖地震の原子力発電所への影響と食品の安全性について（食品安全委員会）
http://www.fsc.go.jp/sonota/emerg/emerg_genshiro_20110316.pdf

・薬事・食品衛生審議会（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000008fcs.html

・食品中の放射性物質の検査について（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html